

令和元年度中山間農業研究所(本所) 試験研究成果検討会開催要領

1 目的

当研究所の今年度の研究成果を報告し、生産者及び関係機関の皆様にご意見をいただくことで、今後の研究の推進につなげる。また、県農林事務所農業普及課（飛騨・下呂）の成果発表及び当研究所との共同研究の成果発表も行い、中山間地農業の発展に向けて話し合う場とする。

2 開催日時

令和2年1月31日（金） 10:00～16:00（第一部 10:00 開会、第二部 13:30 開会）

3 開催場所

飛騨総合庁舎 分館3階大会議室（高山市上岡本町7-468、代表電話 0577-33-1111）

4 日程

第一部「野菜に関する検討」

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:10 開会・あいさつ
- 10:10～10:50 成果検討（2課題）
- 10:50～11:00 休憩
- 11:00～11:40 成果検討・普及成果発表（2課題）
- 11:40～12:00 速報紹介・総合討議

第二部「作物・果樹に関する検討」

- 13:00～13:30 受付
- 13:30～13:40 開会・あいさつ
- 13:40～14:40 成果検討（3課題）
- 14:40～14:50 休憩
- 14:50～15:30 成果検討・共同研究成果発表（2課題）
- 15:30～16:00 速報紹介・総合討議
- 16:00 閉会

5 内容 発表課題名、発表要旨、発表順は別紙1のとおり

6 参集範囲

生産者（指導農業士、青年農業士、飛騨美濃特産名人、農業法人など）、JA関係者、国・県・市町村関係者、報道関係者など 約100名

7 出席者の報告

下記まで報告下さい。

中山間農業研究所（飛騨市古川町是重2丁目6-56、電話 0577-73-2029、FAX 0577-73-2751）

担当者：矢嶋（Eメール yajima-yuji@pref.gifu.lg.jp）

8 その他 万が一、開催日にCSF（豚コレラ）が発生の場合、以下の対応となります。

飛騨地域での発生→中止 飛騨地域以外での発生→開催

(別紙1)

令和元年度中山間農業研究所(本所) 試験研究成果検討会発表順及び要旨

第一部「野菜に関する検討」

1. 10:10～10:30 (西村歩 研究員)

【課題名】夏秋トマト「麗月」の株間・肥培管理について

大玉トマト品種「麗月」は、飛騨地域の共計品種となってから日が浅く、品種特性が明らかとなっていない。そこで、本研究では「麗月」の品種特性を明らかとするために、適正な株間及び肥培管理について検討を行ったので報告する。

2. 10:30～10:50 (浅野雄二 専門研究員)

【課題名】夏秋トマトにおけるミストを用いた省力防除

夏秋トマトの防除は、収穫や樹の管理作業等が忙しいこともあり、防除回数は約10回程度と飛騨トマト部会で推奨する防除暦の半分程度と少ない。収穫作業が始まって防除が手軽に行えるよう省力防除法の検討を行ったので報告する。

～休憩 (10分)～

3. 11:00～11:20 (飛騨農林事務所 浜崎健司 技術主査)

【課題名】スナップエンドウの産地化を目指して ～新たな第3の品目へ～

飛騨地域ではトマト・ホウレンソウに次ぐ「第3の品目」の育成が望まれている。その新たな候補であるスナップエンドウについて、栽培の定着を図るべく、施肥量の見直し・トマトの前作への導入・秋作の安定生産(暑さ対策)などに取り組んできたので、その成果を報告する。

4. 11:20～11:40 (石橋裕也 主任研究員)

【課題名】ホウレンソウ栽培における内張クロス遮光の自動開閉管理

夏ホウレンソウ栽培においては、夏期の高温による生育不良に起因する出荷量の減少が課題となっており、適切な遮光管理の重要性が高まっている。そこで、現地で取り組まれているハウスクロス補強を利用した「内張クロス遮光」による自動開閉管理について検討したので報告する。

第二部「作物・果樹に関する検討」

1. 13:40～14:00 (安江隆浩 専門研究員)

【課題名】エゴマの早生品種の育成と作型の検討

エゴマの面積拡大を妨げている収穫時期を分散するために、早生品種の育成が要望されている。このため、在来種の中から早生品種の育成を行っており、この特性と検討中の作型を報告する。

2. 14:00～14:20 (下呂農林事務所 田口裕允 技師)

【課題名】下呂市における新たなブランド農産物づくり～エゴマ～

下呂農林事務所は下呂市と連携し、地域の伝統的な特産作物であるエゴマのブランド化を進めている。今回、エゴマの安定生産、省力機械化技術の確立・普及、加工品開発・販売支援についての活動経過とその成果を報告する。

3. 14:20～14:40 (宮本善秋 作物果樹部長)

【課題名】「高原山椒(たかはらさんしょう)」の生産安定と新商品の開発

飛騨・美濃伝統野菜である「高原山椒」の生産安定のため、優良個体の選抜や凍霜害対策技術について検討した結果に加え、新たな商品開発の取り組みについて報告する。

～休憩 (10分) ～

4. 14:50～15:10 (可児友哉 研究員)

【課題名】「ひだほまれ」の品質改善のための施肥体系の検討

「ひだほまれ」は大粒で心白が大きいことが特徴の酒造好適米であるが、その特性上、醸造過程の精米時に、割れ米等が問題となることがある。それらを改善するための施肥体系について検討した結果を報告する。

5. 15:10～15:30 (食品科学研究所 澤井美伯 専門研究員)

【課題名】全量基肥栽培「ひだほまれ」の醸造特性評価

食品科学研究所では中山間農業研究所と共同で県産酒米「ひだほまれ」の高品質化に取り組んでいる。本研究では、全量基肥で栽培された「ひだほまれ」の醸造特性について酒米分析や試験醸造を行い、評価したので報告する。